

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、仮払金、未払金、前受金、仮受金及び預り金を含めることとしている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載のとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	48,718,359	28,916,872
未収金	185,607	2,036,315
仮払金	5,509,385	3,315,500
合 計	54,413,351	34,268,687
未払金	5,359,152	3,111,442
預り金	173,455	98,284
仮受金	43,524,977	32,113,595
合 計	49,057,584	35,323,321
次期繰越収支差額	5,355,767	▲ 1,054,634

3. 勘定科目

新公益法人への移行に備え、当年度正味財産増減計算書上の勘定科目の組替えを行ったが、収支計算書については予算対比を明確にするため、収支予算作成時の勘定科目により実績を表示している。

4. 投資活動収入および支出

20周年事業とその他システム保守等のため投資活動収入・支出それぞれ1105万円を予定したが、実績については事業活動収入・支出で計上し、また特定預金の取り崩しは行わなかったため、投資活動収入・支出とも0となった。

20周年事業に関して纏めると以下ようになる。

	予算額	決算額	差異
20周年事業売上	2,040,000	2,112,000	▲ 72,000
20周年事業支出	8,900,000	10,174,673	▲ 1,274,673
20周年事業収支差額	▲ 6,860,000	▲ 8,062,673	1,202,673